

カウンセリングのお作法

第二十六回

CONカウンセリングオフィス中島 中島(水鳥)弘美



高齢の方に対する支援 基本姿勢 その二

「高齢の方を支援するときの基本姿勢」を
考える、その二回目です。

おじいさんおばあさんの呼び方

みなさんは、ご自身の祖父にあたる人のこ
とを、どのように呼んでいますか？

おじいさん おじいちゃん じいさん じ
っちゃんなどでしょうか。

最近、小さい子どもさんは、おじいさんの
ことを「じーじ」と呼んでいる人が増えまし
た。ご自身も「じーじはね」と、お孫さんの
前で話している方も多いようです。

では、祖母をどう呼んでいますか。呼び方
はさまざまですが、どう呼ばれたいかのだわ
りを持っている人もいて、気軽に呼べないか
もしれません。

孫ができることは心からうれしいと思うけ
れど

「私のことを、おばあさんと呼ぶのはやめて
ほしいわ」

という人もいます。

年齢を重ねて、おじいさんおばあさんであ
ることを受け入れ、その呼び方をも了解する
のは時間が必要な場合もあります。

これまでの人生を統合する

高齢とは、エリクソンのライフサイクル論
のなかで「成年後期 老年期」にあたり、
年齢はおよそ六十五歳以上と考えます

その発達段階における心理社会的課題は、
自己統合つまり、これまでの人生をふりかえ
ってまとめることです。

これまで自分が歩んできた人生を受けとめ
ることができなければ、その対極にあるのが
「絶望」という危機であると示しています。

絶望という言葉が強烈ですが、年々、失う
ものが増えていきます。

さまざまな喪失体験

喪失としてあげられるのは、人間関係の喪
失、親しい大家族身内の死亡。役割の喪失、
社会的な役割などからの引退。そして、身体
機能の喪失、さまざまな体の機能の低下が考
えられます。

一方、新たな可能性として、自由に生きら
れる時間。趣味や社会貢献。新たな生きが
い、社会・他者とのかわりがあります。

よき老い方(サクセスフル・エイジング)

よき老い方は、老いていくことを認識しつ
つ、受け入れながら、日々の社会生活にうま
く適応して豊かな老後を迎えていることを示
します。



おじいさん おばあさん

心理社会的課題は統合

自分自身の人生を受け入れ、その価値を見出す
死と向き合い、受け入れようとする



さまざまな喪失体験

人間関係の喪失 役割の喪失 身体機能の喪失

新たな可能性

自由に生きられる時間 趣味や社会貢献 新たな生きがい
社会・他者とのかかわり



よき老い方

(サクセスフル・エイジング)とは

年齢とともに、老いていくことを認識しつつ、これを受け入れながら
社会生活にうまく適応して豊かな老後を迎えていること



高齢者と接するときの基本姿勢 その二

「高齢者の感じ方」 身体機能の変化を受け入れる

年齢とともに、失うものの一つは、身体機能の低下です。そのことを徐々に受け入れていくのが老年期です。さまざまな喪失体験の状況に対して、支援する立場の人が、理解を示しつつ、接するときの姿勢について考えてみましょう。

● 認知症の傾向があるCさんは、特別養護老人ホームにショートステイ中です。

ある日、レクリエーション・ルームにやってきたのですが、Cさんのズボンは濡れていて、そのことに気づいていないようです。

職員のアナタは、このような場合どのような対応や言葉かけを行いますか

基本姿勢

Cさんに不快感や体裁の悪さを与えないようにして接します

ズボンの濡れは飲食等によるものなのか、失禁によるのかは不明。(失禁の場合は、意識のうへで大混乱になる可能性も心得ておく)

立ち位置は、まっすぐではなく、斜めの位置関係で話すと話しやすいと考えられます

対応例

職員(員) Cさん、良くいらっしゃいました

Cさん) ……

職員(員) 少しお話したいのですが、よろしいでしょうか?

Cさん) はあ。

(了解が取れば、話しやすい場所、あまり多くの人の目に触れない場所に移動する)

職員(員) 移動ありがとうございます

Cさんの洋服がぬれているように見えるのですが。

Cさんとともに確認をする

認知症傾向のある利用者さんに言葉かけをするときは、多くの情報を同時に発することはできるだけ避けて、ひとつずつ伝える。

たとえば、

職員(員) Cさん来て下さい。濡れているので、息子さんからもらったあの緑色のズボンに、お部屋に行って着替えましょう。きつとお似合いですよ。

↓と、たたみかけて話すよりも、

職員(員) Cさんよろしいですか。移動する

ズボンが濡れていますね。ズボン確認
お部屋に行きましょう。 部屋に移動
着替えましょう。 ズボン着替
お似合いですよ。 表情確認

一つの話題のみを伝えると、混乱せずに話のやりとりがしやすくなると考えられます。

認知症の傾向があるCさんは、特別養護老人ホームにショートステイ中です。
ある日、レクリエーション・ルームにやってきたのですが、Cさんのズボンが濡れていて、そのことに気づいていないようです。

あなたはどのように対応しますか？



ズボンが濡れています 失禁？



基本姿勢

不快感や体裁の悪さを与えないように



話しやすい場所に移動



- ◎ 「着替えましょう」
ひとつずつ伝える 多くの情報を一度に伝えない
- △ 「濡れているので、移動して、息子さんからのプレゼントのズボンに着替えましょう、きっとお似合いですよ」



高齢者と接するときの基本姿勢 その二

さまざまな喪失体験 もっとも配慮が必要

もうひとつ考えてみましょう。
身近な人の喪失体験の高齢者に対して、どのように接するかについてです。

次の場面を考えて下さい。

●ケース…高齢者向け介護施設で暮らすDさんを「グループプレクリエーション」の時間に誘おうとしたのですが、仲の良かった同じ施設のYさんが昨日亡くなったためにひどく落ち込んでいて「今日は出席したくない」と言われました。

あなたは勤務二年目の職員ですどのような言葉かけを行いますか？

基本姿勢

身近な人の喪失体験…最も配慮が必要な場面のひとつです

「そうですね、親しくされていたYさんが亡くなられたのですよね」

親しくしていた人が亡くなった場合、その方とのつながりの程度に応じて悲しみの共有をすることが大切です。

このときに、すぐに慰めたり、積極的に励ましたりすることは控えます。

「しかし」「でも」等の反対語はできるだけ使わず、そうですね、当然ですの姿勢が基本です。

↓でもねなどの反対語を使うと説得するような対応になり、押しつけがましく思われます

利用者側からすると、自分の今の状況を受けとめられていないと感じ、さびしい思い、あるいは、いらだちを感じることもあります。

Dさんの話をゆっくりと聴かせていただき、時間に応じて、

「今日のグループプレクリエーションはどうなさいですか」

と、改めてたずねます。

参加、不参加どちらを選んでも、受けとめます。注意深い判断が必要になりますが、体を動かすこともときに必要な場合があることを記憶しておき、タイミングをみて

「少し、お散歩しながら、お話ししましょう」

と一人きりにならないように、誘うのもひとつの方法であるかもしれません。

レクリエーションの内容によっては、参加したくない気持ちがあることも配慮しつつ、静かな時間を過ごすことを望んでいる場合も多くあります。

高齢者向け介護施設で暮らすDさんを「グループレクリエーション」の時間に誘おうとしたのですが、仲の良かった同じ施設のYさんが昨日亡くなったためにひどく落ち込んでいて「今日は出席したくない」と言われました

職員のあなたは、どのような言葉かけを行いますか？



仲の良かったYさんが亡くなりました



基本姿勢

悲しみの共有



今日はどうなさいますか？



CON 子さん 心理カウンセラー

喪失体験をともに分かち合うことは簡単ではありません 慎重に